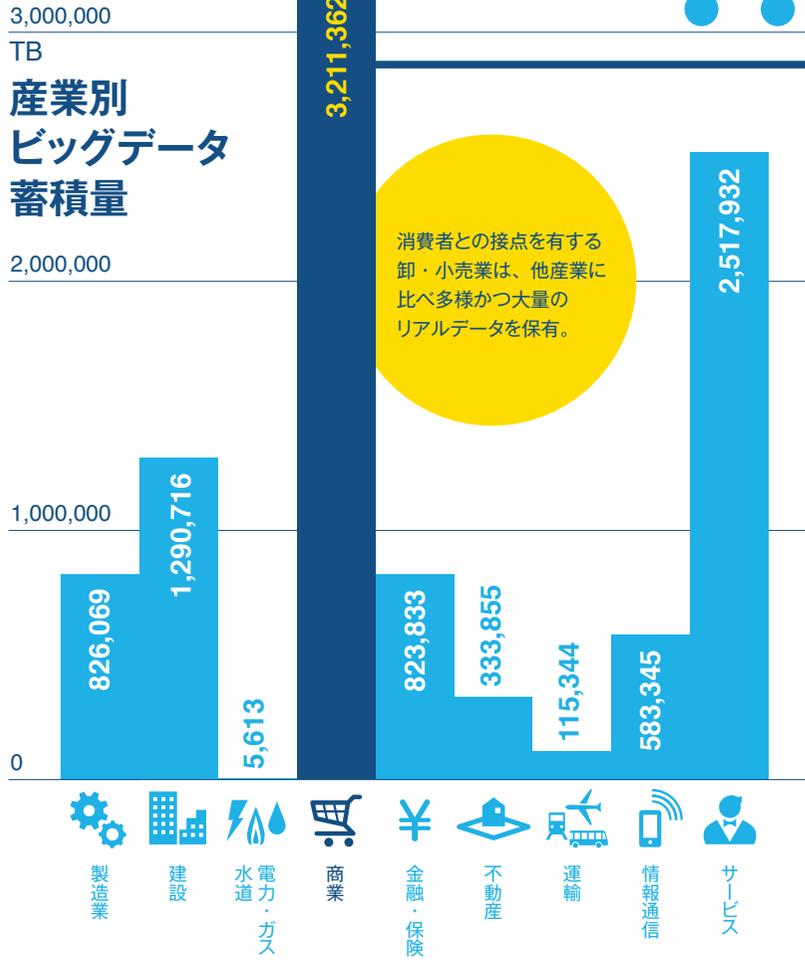


# データ利活用がもたらす 卸・小売業の未来



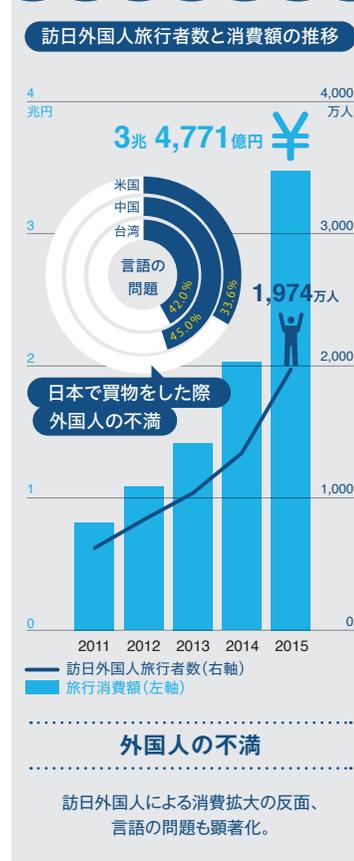
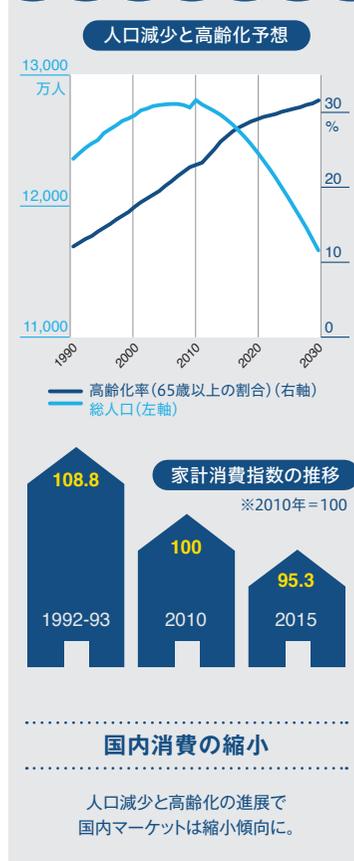
## 産業別 ビッグデータ 蓄積量



消費者との接点を有する卸・小売業は、他産業に比べ多様かつ大量のリアルデータを保有。



## ビッグデータ利活用による課題解決



課題解決された未来

現状の課題

産業別ビッグデータ蓄積量: 出所: 総務省「情報流通・蓄積量の計測手法に係る調査研究(平成25年)」データ蓄積量の推計を行うにあたっては企業内外に設置されているサーバーに保存されている全てのデータが対象。人口減少と高齢化/家計消費指数: 出所: 2010年までは総務省「国勢調査」、2010年以降は、国立社会保障・人口問題研究所「日本の将来推計人口」の出生中位・死亡中位による推計結果。家計消費指数は総務省「家計調査」より、「消費水準指数(世帯人員分布調整済)~二人以上の世帯」(物価変動を考慮した実質値)。なお、1999年以前は農林漁家世帯を含まない。訪日外国人旅行者数と消費額は、日本政府観光局(JNTO)調査及び観光庁「訪日外国人消費動向調査」外国人の不満: 出所: 株式会社宣伝会議「トッププロモーションズ 販促会議」2015年1月号 労働生産性と就業者数構成比: 出所: 総務省・経済産業省「平成24年経済センサス-活動調査」※労働生産性=付加価値額/従業員数 ※付加価値額=売上高-費用総額+給与総額+租税公課 GDPに占める業種別割合: 出所: 内閣府「国民経済計算」(名目、2014年確報)※ネット、テレビ、カタログ等による通信販売は小売業に含まれる。 ※インターネットショッピング・オークションサイト運営は情報通信業に含まれる。 産業別就業者数: 出所: 厚生労働省「労働力調査」2014年(暦年)※総数から産業不明は除いて計算している。